

かわべ

2004年12月

発行

河辺村公民館

☎ (0893) 39-2111

河辺村ホームページ

<http://www.vill.kawabe.jp/>

[kawabe.ehime.jp/](http://www.vill.kawabe.jp/)

E-mail

info@vill.kawabe.jp

[ehime.jp](http://www.vill.kawabe.jp/)

佐川印刷 KK

大洲市若宮 496

☎ (0893) 24-0771

さようなら 『河辺村』

～みとめあい ささえあう 肱川流域都市を目指して～

閉村に思う



河辺村長
稲田 秀一

激減と、高齢化率四十六%の過疎の村となってきました。河辺村だけではありませんが、残念な傾向であります。

このような世相の中ではありますが、住み良い、心豊かな村にしようとして、私も多くの諸先輩方と共に、河辺村で青年団や農業後継者、公民館活動と地域活動に関わってきました。またこの半世紀の間には、時代の要望に的確に応えながら、小学校中学校を建て、役場を建て、公民館活動や文化財保護、スポーツの振興、観光推進、花いっぱい運動等々、数えきれない業績や事業を積み重ねて、今の河辺村があります。

閉村式では様々な思いが去来し、村旗降納では、感極まり涙ぐむ姿も見受けられました。本当に河辺村を愛し、共に歩んでこられた皆さんにとっても、私にとっても惜別の日であり、断腸の極みでありました。

これからは、私たちは新しい時代にふさわしい地域づくりへ踏み出さなければなりません。三位一体改革が問われる中、自らの地域は自らが守るといふ、自治の精神を生かし、新しい大洲市の一員として発展していかなければなりません。

しかし、急激な変化は好みません。改革はもろんししなければなりません。合併協議会で話し合われたことや、今までに先人たちが積み上げて来た多くのことを、新市となってもスムーズに移行し、みんなが納得した上で、ゆるやかに対応すべきだと思います。

最後に、河辺村に対して輝く汗と情熱を注ぎ、発展に寄与された多くの皆様に敬意と感謝を申し上げます。そして、これからの大洲市の発展を心から祈念し、閉村にあたっての言葉といたします。

十二月七日に閉村式を挙行致しました。

昭和二十六年肱川村から分村以来五十三年経過した今日まで、敗戦から立ち上がり、高度成長からバブル期を経て歩んできました。人口のピークは昭和三十五年の四千五百七十一人であり、平成十六年十二月現在で、千二百六十六人と七割もの



河辺村議会議長
田中 五月

進地視察研修、合併問題研修会等再三行つて検討を重ね模索をいたしました。時代の流れには抗せず、諸手を挙げて望むものではありませんが本年六月議会において合併を選択し議決いたしました訳であります。

この度閉村式を迎え改めて万感胸に迫るものがございます。顧みますと肱川村より分離独立いたしました当時は、戦後間もなくの折、財政は苦しく、物資も乏しい時代であり、おりしも昭和の大合併の時期、分離独立の立村には大変な苦労と勇気を要されたことと思っております。立村後は小・中学校の校舎建築等々が相次ぎ、村民は夫役もいとわず、乏しい財政をささえ、新進の気概に燃えて、今日まで幾多の困難を乗り越え、ふるさと河辺を育てて来られました。

先人の熱い思いがあったればこそ、今の河辺村があり繁栄があると思えます。中でも行財政の健全化、産業、観光においては、ふるさとの宿を中心とし、ふるさと公園の整備、坂本龍馬脱藩の道、浪漫八橋等が認められ、「きららめく創造準グランプリ賞」「えひめアメニティ賞」四国初の「優秀観光地づくり賞」等を受賞し、我々の受けました恩恵は計り知れないものがあり、改めて先輩諸公に感謝と敬意を表す次第であります。

今私たちが置かれております状況は、当時から半世紀を経て時代は大きく様変わり致しております。

分離独立、今、合併と相反する形ではありますが、同じ街づくりの新しいスタートに立ち、来年一月十一日新大洲市となりますが、先輩たちの熱い思いを受け継ぎ、厳しい条件下ではありますが、認めあひ支えあひの理念に基づき、公平公正な地域格差のない新自治体となるべく努力を重ね、河辺地域の展望を期待いたしますと共に、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。

「いろいろなことを学び、
有意義で楽しい文化祭を」

11/23

今年も河辺中学校の文化祭は大盛況のうちに終わりました。今年の文化祭は、午前中、午後ともに充実していたように思います。午前はまず、学習発表会として、三人の生徒がテーマ学習の発表を行いました。その後、初めての試みで俳句甲子園を行いました。俳句の作品もさることながら、生徒の弁論における表現力には驚かされました。午前の部の最後、音楽発表でもどれも素晴らしい合唱や演奏でした。

午後の部最初は、二年ぶりに復活のパパーズの演奏で会場が盛り上がり、紅白歌合戦や何でもダービー、宝くじ抽選会と続きました。午後は、午前の部と比べると、生徒が主体で楽しい企画が多く、お客さんも一緒に楽しみました。体育館で行う企画は以上ですが、他にも校舎内で楽しい催しを行いました。来年も今年の文化祭を反省しながら、充実した文化祭にしたいと思います。来年もお待ちしております。



涙を誘った
「ふるさと」

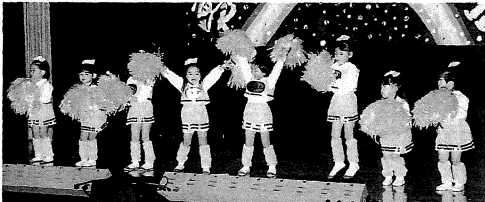
11/28

保護者の方々はもちろん、地域の方々にも多数ご観覧いただき、盛大に学芸会を開催することができました。

一年生の堂々とした「はじめのあいさつ」で始まり、観客の目をくぎづけにした幼稚園のダンス、低学年のかわいい劇、中学年の舞台いっぱいを使った元気なよいダンス、アンコールのかかった高学年のダンスやほのぼのとした笑いを誘った劇と、それぞれに

工夫された劇やダンスでした。練習時間は短かったですが、子ども一人一人が活躍できたすばらしい学芸会でした。

最後は、「ふるさと河辺」をテーマにした全校音楽。合併前の「河辺村」を子ども一人一人が心に刻むことのできた発表でした。観客の方々も共感の涙を流してくださいました。この思いが、六年生のおわりのあいさつにも表れていたと思います。ご観覧の皆様には、



最後まで温かいご声援をいただき、本当にありがとうございました。

盛大に！健康・文化フェスティバル

10/17

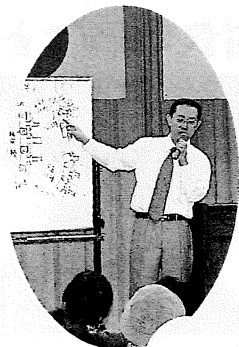
公民館、老人福祉センターを会場として『健康・文化フェスティバル』が、大勢の方にご来場いただき盛大に開催されました。

公民館一階で行われた文化協会発表会では、自慢の歌声だけでなく、舞踏も披露していただきました。

午後には、医療法人恕風会じよふうかい介護老人保健施設長浜ひまわりひまわりの理学療法士、谷村 格いさむら氏を講師にお迎えして「腰痛予防で楽々人生を」と題した講演をいただき、腰を痛めない物の持ち上げ方や背筋強化のための運動の仕方など、実演を交えてわかりやすく話していただきました。

その他にも、婦人会によるバザーやお楽しみ抽選会、健康クイズ、青空市、農作物産展、幼・小・中学校作品展、一般作品展、介護用品展、ゲームなどで大いに賑わい、最後には景品付きもちまきが行われ盛会のうちにフェスティバルを終了しました。皆様のご来場誠にありがとうございました。

なお、農作物産品評会での主な入賞者は次の方々です。おめでとうございます。



河辺村長賞

乾しいたけ 花岡 示光

脇川地区林材業振興会議会長賞

乾しいたけ 富永 順一

河辺村議会議長賞

きゅうり 中山 政義

大洲市森林組合河辺支所長賞

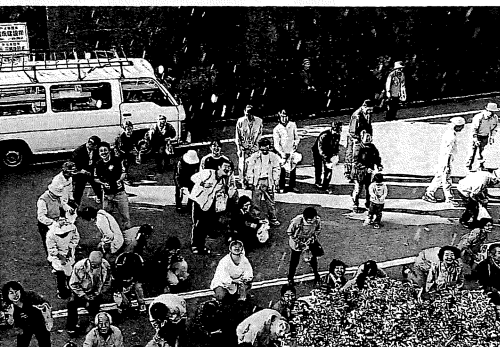
乾しいたけ 佐々木 一男

川上商工会長賞

こんにゃく芋 谷本 福雄

愛媛たいぎ農協河辺支所長賞

栗 久保 照子



学社融合 『ひまわり学習』

ひまわり学習は、昨年度より小学校の『総合的な学習の時間』と合同で実施をしています。

十二月六日(月)には、五年生六名が肱川町より瀧野隆志氏を講師にお迎えし、小学校を出発してサンサン農園までの二・五キロを双眼鏡片手に歩き、途中の木々でエサを食べたり羽を休めている鳥の観察(バードウォッチング)を実施しました。



12月6日 バードウォッチング

今回の観察では、メジロやキツツキ、ルリビタキなど二十種類の鳥たちを見ることができ、美しい羽色の鳥を初めて見た子どもたちはとても感激していました。

観察の最後に講師の方から、「せっかくなのでこれだけの自然があるんだから、家の中でゲームをするより双眼鏡を買って



12月8日 うどん作り

野鳥を観察してください。目も良くなります。」と言われました。何人の子どもが興味を持ってくれたでしょうか。

十二月八日(水)には、三年生五名が梅木美由紀氏を講師にお迎えし、うどん作り(手延べうどん)に挑戦しました。慣れない手つきで包丁を使ったり、誰が一番長く延ばすか競争したりと、真剣さの中にも楽しみを見つけて仲良くうどんを作っていました。

自分たちで作ったうどんの味は格別で、みんな普段以上の食欲があつたように思います。自分で使った食器を自分で洗っている姿を見て「家でもそうしたら助かるねえ」と講師の方がつぶやいておられました。

これからの公民館では、学校教育と社会教育が協力して、河辺の児童・生徒のために事業を実施していきたいと思えます。

ふるさと クッキング

10/25

中学三年生三人が料理作りに挑戦しました。

これは、河辺の同級生との思い出作りとして、また、栄養のバランスを考えた料理がきちんと自分で作れるようにとの思いから行っています。

この日は、管理栄養士の上野マリエ氏を講師にお迎えし、栄養指導と調理実習を行いました。

栄養指導では、一日に必要な

河辺村教育 研究大会

11/15

平成十六年度河辺村教育研究大会が河辺中学校で開催されました。大会の講演には大洲警察署生活安全課課長、和藤秀人氏を講師としてお招き

し、「犯罪から身を守る」というテーマでお話していただきました。講演の内容は「おれおれ詐欺」や身に覚えのない架空請求など、最近多発している犯罪にどう対応したらよいかというものでした。「おれおれ詐欺」では今年十月までに大洲署管内で五件、合計六百三十八万円の被害が発生しているとのことでした。



調理風景



食事風景

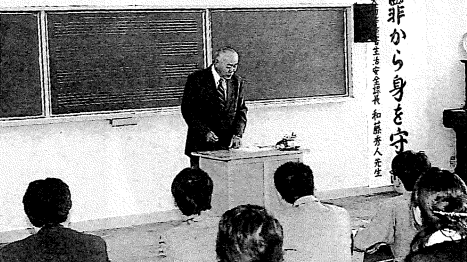
なカロリーや塩分をフードモデルで説明していただいたり、きちんと食べるのがダイエットにつながることをなどを教えていただきました。

調理実習では、調味料を間違えて入れてしまい材料を水洗いするハプニングがありました。三人の協力で「魚のホイール焼き」「野菜の即席ピクルス」「キャロットライス」「みかんゼリー」「納豆と温泉卵」の五品を作り上げました。三年生の三人には、今回の調理実習を一つの自信として、三月の高校入試と春からの新生活を頑張ってもらいたいと思えます。

た。お話を聞き、これらの犯罪が遠い世界の出来事ではなく、身近な所まで迫っていることを改めて実感しました。また、今の社会は子どもたちをいかにして守っていくかを真剣に考えなくてはならなくなっているということです。

最後にになりましたが、今まで本研究所の活動を温かく支えていただきました村行政当局、村教育関係機関に感謝し、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

河辺村教育研究大会



子どもたちを守るには...

犯罪から身を守る
河辺村教育研究大会
講師 大洲警察署生活安全課課長 和藤秀人氏

非常招集

十一月七日に消防団による防火パレード及び非常招集訓練が行われました。

当日は、天候に恵まれ、午前七時から各分団及び女性消防団員による防火パレードを行い、その後河辺中学校グラウンドで訓練礼式、はしご操法訓練、消防資器材取扱訓練を行いました。

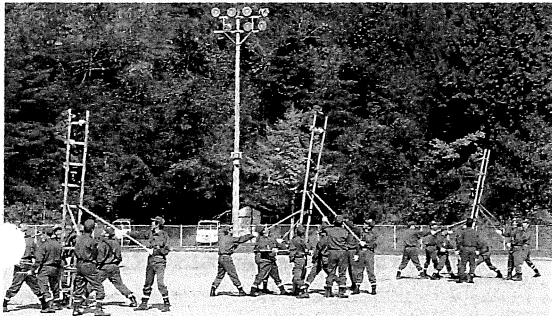
各団員におかれましては、訓練に多数参加いただき、消防団員としての基本動作を身につけるべく熱心に取り組まれました。

今日、本村でも少子高齢化が進み、地域に若者が少なくなる中、団員の確保が困難になってきておりますが、消防団員各位には、日ごろ多忙にもかかわらず、崇高な郷土愛護の精神と旺盛な責任感を持って、地域住民の生命財産を守るため、献身的に消防業務に精励されており、村民一同、心強い限りでありまして、このご苦勞に対し心から敬意と感謝を申し上げます。

来年の一月十一日には、大洲市、長浜町、肱川町、河辺村が合併し「大洲市」となり、分団の組織及び消防団員は、現行のまま引き継がれますの



全員整列！



はしご操法訓練

で、消防団活動に温かいご支援をお願いします。

これからのシーズンは、火事が多くなりますので、防火意識を高め、安心して暮らせるように気をつけていきたいものです。

スポレク県大会

11/7

松山市を中心に「愛媛スポーツ・レクリエーション祭二〇〇四」が開催され、河辺村からは、年齢別バドミントンに男子チームが参加しました。

十八チームが参加して松山中央高等学校体育館で行われたこの競技は、今回大会より三十三歳以上一名、四十歳以上一名を含んだ一チーム六名以上で編成することが義務付けられ、出場選手の確保がなかなか大変だったためか、喜多郡からの参加は河辺村だけでした。

一回戦で菊間町チームと対戦した河辺村チームは、セットカウント1対2で惜しくも敗れてしまいましたが、全力を出した選手達の表情はさすがにいいものでした。選手の皆さん大変お疲れさまでした。



県陸上競技通信記録会

11/8

穏やかな日差しに包まれた愛媛県陸上競技場。青い空と緑の芝、赤いトラックの中で、県内の各地から集った小学生アスリートたちが、記録会の始まりを今や遅しと待ち望んでいました。ソフトボール投げの喜多郡代表として参加した、梅田剛志君もその一人でした。

向かい風の中、ソフトボール投げが始まりました。三投で、自分の全てを出し切るといふのは難しいかもしれませぬ。多くの選手がこの風に悩まされていきました。剛志君も、



今回は五七・八六mで、自己ベストを更新することはできませんでした。しかし、県陸上記録会でボールを投げたこととの緊張と興奮や、全力で取り組んだことの満足感を、競技終了後の彼の笑顔が表していました。それはこの日の青空と同じ、とても爽やかな笑顔でした。

館報についてのお知らせ

皆様にご愛顧いただいてまいりました、河辺村公民館報「かわべ」も最終号となりました。

二か月に一度の発行ということでお知らせに時間がかかってしまったり、二十五日の発行日にもかかわらず発行が遅れてしまったりと、ご迷惑をお掛けしたこともあったと思います。

新大洲市では、広報「おおず」が毎月二十日発行となり、市の情報やお知らせなどが掲載されますので、是非ご覧ください。なお、公民館行事につきましては、河辺村公民館報「かわべ」から河辺公民館報「かわべ」に名称を変更してお知らせしていきますので、今後ともよろしくお願いたします。



編集委員のみなさん

年金ワンプイント

年金相談の時間延長と 休日開設のご案内

県内の社会保険事務所の年金相談窓口では、下記のとおり、毎週月曜日の年金相談の時間延長及び休日における年金相談を実施いたしますので、ご利用ください。

1. 毎週月曜日の時間延長

12月6日以降の毎週月曜日は、年金相談を午後7時まで延長します。

- (注) 1. 月曜日が祝日の場合は、火曜日となります。
2. 1月31日(月)及び2月28日(月)は、システムの都合により、時間延長できません。
通常どおり、午後5時までの相談となります。

2. 休日開庁による年金相談の実施

1月22日(土)、2月19日(土)、20日(日)、3月12日(土)、13日(日)は、社会保険事務所を開庁して、年金相談を実施します。

相談時間 午前8時30分～午後5時まで

3. 実施の社会保険事務所

松山東社会保険事務所	松山市朝生田町 1-1-23
松山西社会保険事務所	松山市南江戸 3-4-8
新居浜社会保険事務所	新居浜市庄内町 1-9-7
今治社会保険事務所	今治市別宮町 6-4-5
愛媛社会保険事務局 宇和島事務所	宇和島市天神町 4-43

おがわ あゆむ
小川 歩夢ちゃん
(川崎)



よく食べて、よく寝て、よく遊ぶ!!
これからも元気いっぱいいてね。(父母より)

河辺村の宝物

はじめての
バースデー

河辺村ボランティア相談窓口開設

地域での「支えあう・助け合い」活動が、より活発に行われるよう11月19日(金)から役場福祉課にボランティア相談窓口を設置しました。

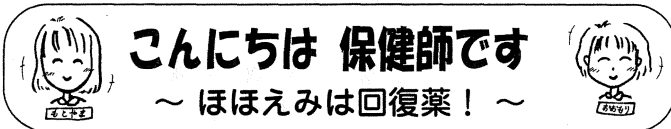
手助けしたい方、手助けを必要とする方、是非、ボランティア相談窓口にご相談ください。

また、「ボランティアを始めてみたいけど、何から始めたらいいの」という方も大歓迎です。「自分の意志で、ムリせず、楽しく、できることから」をモットーに、まず、始めてみましょう。

なお、愛媛ボランティアネット(県が運営)も11月19日(金)に併せてリニューアルオープンしているので、のぞいてみて下さいね。

<アドレス>

【愛媛ボランティアネット】<http://nv.pref.ehime.jp>



「予防接種がかわります」

予防接種は、自分自身やわが子の健康維持のため、また社会全体の感染症予防のため大切なものです。このため対象者には、きちんと受診するよう努力義務が課せられています。また、対象者が予防接種の目的を理解し、体調のよい日に接種するのが望ましいということから、個別接種により実施することとなっています。今回、合併を機にポリオを除いて、完全個別接種を実施することになりまし
実施開始は4月からで、それまでに必要な問診票と接種券とを配りますので、最寄りの医療機関で接種確認をしてから、受診して下さい。高齢者のインフルエンザも同様に対象者に問診票と接種券とを送りますので期間内に必ず忘れずに持参して受けて下さい。

また、H17年4月からの結核予防法の改正により、BCGの予防接種が大きくかわります。4才までの接種期間が生後6ヵ月までになり、ツ反なしのBCG直接接種となります。この生後6ヵ月を過ぎてしまうと、任意接種となりますので、自己負担で受けるようになります。先天疾患のみきわめ時期からいえば、生後3~6ヵ月の間に予防接種を受けるのが望ましいため、とても限られた期間に保護者の方に負担をかけるようになりますが、御協力よろしく願います。

何かご不明な点がありましたらいつでもお問い合わせ下さい。

フレッドの河辺見聞録

Fred' Christmas

みなさんこんにちは。今年は私はとてもよかったです。アジアに行きません。カナダへかえります。私の家族はあまり信仰熱心ではありません。それにもかかわらず、クリスマスと元旦は大切です。みんなが集まります。50人くらいがいます。いっぱいでしょう。みんなはキス交換します。それは日本と違うと思います。

ポピュラー料理を作ります。もちろん、七面鳥も食べます。でも、おばあさんのデザートの方が好きです。彼女のはめちゃうちゃおいしいレモンパイとナッツパイとたくさんのケーキをつくります。

子供の時にクリスマスの歌を歌いましたが、今はいとこ私は飲み物で楽しめます。

めったに会わないので、会話が長くなります。とても好きです。あけましておめでとうございます！



おばあさんと親戚です。

大洲警察署からのお知らせ

CPP作戦実施中！

年末は、人・物・金の動きが活発となり、例年事件や事故が多発します。そこで警察では、11月1日から12月20日の間、「CPP作戦」を実施します。

「CPP作戦」とは

- ★C Crime (クライム)犯罪
- ★P Prevention (プリベンション)予防
- ★P Pointers (ポインターズ)点検

という意味で、警察が民間の防犯組織と共同して銀行強盗などの犯罪を防止するために行う「地域安全運動」のことです。

店舗・事務所などの防犯体制をかためましょう！

- 防犯体制・設備を点検して、組織と施設を強化しましょう。
- 防犯責任者を指名して、朝礼時などに防犯指導しましょう。
- 利用者（お客様）保護のための防犯指導を徹底しましょう。
- 事務所・店内の不審者への声かけを徹底しましょう。
- 夜間は、店内・事務所へ現金を残さないようにしましょう。
- 夜間の一人だけの営業（単独勤務）や残業は避けましょう。
- 現金の配達時は特に危険、必ず複数の人で対応しましょう。

灰皿の前が指定席。



喫煙は必ず灰皿のある場所で

あつちでプカリ、こつちでプカリ。タバコが高熱（約七百度）の火種であることを考えると、くわえタバコは、とても危険なのがよくわかると思います。

タバコを吸われるみなさん、タバコは灰皿のあるところで吸い、吸ったタバコの火は完全に消しましょう。

なお、灰皿の中に水を入れておくことも、タバコによる火災防止のポイントです。



ふとんに焼けこげ、パパ反省。

布団で一服……。寝タバコが習慣になっていませんか。寝タバコによる火災が恐いのは、ちょうど寝入った頃に発生するからです。今までも多くの尊い命が失われています。飲酒をしての寝タバコは特に危険です。絶対してはいけません。

愛煙家のみなさんにお願したい家族を守る住宅防火のルールです。

タバコによる

火災の防止



川上支署

こちら一九番です

インフォメーション

	1	月
1		
2		
3		
4		
5		
6	健康相談	
7		
8		
9		
10		
11	新「大洲市」誕生	
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
未定		

人権教育シリーズ (109)

「第五十六回全国人権・同和教育研究大会」に参加して

河辺中学校 西原 誠

十一月二十七・二十八日に大阪府内各会場において開催されました「第五十六回全国人権・同和教育研究大会」に初めて参加させて頂きました。全国各地から二万二千人以上が参加した会場からは、部落問題・人権問題に関わる差別の解消と人権の確立をめざす熱い意気込みが感じられました。

全体会の特別報告では、大阪府内のいくつかの地域から部落差別をはじめとするあらゆる人権問題に対して学校と家庭・地域が協働した実践報告があり、涙あり、笑いあり、感動ありの差別解消をめざす気持ちの込められた報告でした。

分科会には「識字運動」に参加いたしました。四つの地域からそれぞれの取組の報告があり、部落差別によって文字を奪われた人たちが受けてきた苦痛と今、必死になって文字を勉強し、奪い返そうと努力している現実を知ることができました。

ご存知のとおり、部落差別は日本人の手によって作り出された差別です。そのために、これほど多くの人が苦しんでいる現状を目の前にして、驚きと勉強不足による情けなさや怒りが込み上げてまいりました。

一部では部落問題は解決したと言われていますが、まだまだ根の深い差別として解決に向けて取り組んでいく必要があると感じます。

印象に残ったことは、この分科会の資料にだけはすべてふりがなが打ってあったこと、皆さんが堂々として「私は部落出身者です」「私は識字学習者です」と言っている意見を述べ、自分の進路・生き方を切り拓いて

いこうとする力を感じたこと、そして最後に韓国から日本の部落と呼ばれているところに嫁いで来られた方が「この日本に部落差別というものがあることが不思議で理解できない。おかしなことだ」と言われたことが強く頭と心に残っています。

初めて全国人権・同和教育研究大会に参加して、差別の現実を痛切に感じたこと、参加者の差別解消に向けた思いがとても熱く伝わり共感できたこと、そして何より自分の認識の甘さに気付いたことが大きな成果であったと思っております。

機会がありましたら、より多くの人に参加していただきたいと願うとともに、あらゆる差別の解消に向けて取り組む姿勢を持ち続けたいと思います。

最後に、このような研修の機会をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

短

歌

見渡すは霧まぼろしか念願の

石鎚に佇ちただたありがたし

山本カシ子

山峡の廃校跡地に集い来て

ゲートボールの声に賑わう

谷本 義隆

子供より八十才の誕生日に

送り届きし鯛は嬉しき

清水 菊江

奥伊予のかまぼこ板に描かれし

緻密なる絵に刻を忘れつ

谷本 愛子

戦友の屍を越えて辿りつく

自爆と決めしウランバトル

大野 勇

雨降らぬ日とてあらずもこの秋の

倒れし稲穂に白き芽のふく

大野伊都子

濁流に三杯谷の滝沫

木洩陽させば虹となりゆく

松尾 久子

自らをヨワンボと呼び抗わぬ

妻とはなりて二度冬に入る

戸田 薫明

消息

自 16・10・11
至 16・12・10

☆お誕生おめでとう

①村上くるみ (出) 合 父 卓也
母 奈々恵

②富永 一匠 (出) 合 母 光紀
父 重紀

③大森 結真 (出) 合 母 直香
父 美香人

☆未ながくお幸せに

田中 琢男 (川崎)

武田 恵子 (寺敷中)

☆おくやみ申し上げます

山下シゲ子 (旭) 89歳

中野トクミ (天神) 64歳

小西 猛 (神納) 75歳

富永 清数 (国木) 83歳

熊野オチエ (植松) 88歳

利男 (横山中) 63歳

(百合合) 89歳

人のうごき

(平成16年12月1日現在)

世帯数 527戸
男子 622人
女子 642人
計 1,264人

H15.12.1 現 1,308 (△44)
H14.12.1 現 1,339 (△75)
H13.12.1 現 1,367 (△103)
H12.12.1 現 1,364 (△100)
H11.12.1 現 1,389 (△125)

閉村に恩



河辺村教育委員長

玉井 隆

今、閉村について考えるとき、どうしても五十年前の肱川村からの分離、立村のころを思い出す。私は当時十七歳であったが、分村問題について、強い関心をもっていた。この原稿を書くに際し、当時分村運動の中心的役割を担われ、村の生き字引とも言える向井猛氏を訪ねた。伺った話の内容は膨大なため、すべてを紹介することはできないが、その概要と私の気持ちを記すことにしたい。

昭和十八年四月、県内最大の肱川村が生まれた。戦後になって、この合併は民意を無視した戦争協力のための強制合併である。また農村社会特有の気質や民情が区域が広いため合致しない。交通網の整備や生活環境の向上を村民自らの手で実現したいなどにより、かねてからくすぶり続けていた、分村問題への一石が投ぜられたのは、二十五年四月、故藤田嘉一郎さん外八十八名により、肱川村選挙管理委員会に出された「区域変更請求」であり、これが第一次分離請求といわれる。これより前二十四年十二月、志を一つにする九名の方の会合に始まり二十五年三月河辺村分離期成同盟が結成された。それに対し肱川村では分離反対同盟が生まれ、その後双方が住民の同意を求めて熾烈な運動が展開される。

署名運動や住民集会を重ね、「独立しなければ河辺が衰退する」と説いてまわり、その会は五十数回にも及び、高松の進駐軍の事務所まで陳情にも出掛けた。当時元老と呼ばれる十数人の方々の後押しもあって、その運動は激しさを増していった。そして最終段階に入り、二十五年九月、県議会特別委員会が分離請求を否決、採決の直前、自由党県支部に取扱一任となり、十月二十七日調定案が示され、それにより分村問題は事実上成功し決着した。そして昭和二十六年一月一日、七七四戸、四二五一人の新村河辺村が誕生したのである。

当初の職員は、村長以下二十二名、議会議員十六名、村民の寄付で念願の診療所をつくり、中学校は、自衛隊に建ててもらうなどさまざまな苦しい時代を経て今日に至った。

思えば、村議会議員を始め地方自治に必要な各種委員会、協議会等のほか、村の行政に携わる村長以下地方公務員となって、地位、

名誉、経 営にも遇された人達は、この五十三年間で、一体どれほどになるだろう。

更に農林業を始め交通網の整備、福祉施策の充実のほか数々の恩恵に浴して来たが、これらはすべて、小なりと雖も独立した自治体であったからである。

五十数年前理想郷をめざして、ほとばしる情熱を傾け、分離運動を起こし、それを達成された向井猛氏を始め、今は亡き先人達に対し、深く敬意を表し、惜しみない拍手を贈りたい。

そして今、平成の大合併を迎え、過日閉村式が行われた。一堂に集いし村民は、村の象徴として長く慣れ親しんだ村旗の降納に立ち合い、堪えがたい淋しさに会場は静寂につつまれた。来し方を振り返り、行く末を案じる共通の思いが胸をよぎったに違いない。

これからは新しい市民として広くお付き合いを重ね、河辺町がよりすばらしい町になるよう、明日の力に期待したい。

私も静かに沈む夕日のように、美しく輝いて晩年を迎えたい。最後に長い間のご高誼に感謝して。合掌



河辺村農業委員長

梶川 吉彦

平成の合併にともない五十有余年続いた河辺村の歴史を閉じるにあたり、私の想い出を書かせていただきます。

河辺村が誕生した昭和二十六年頃というのは、農林業が盛んで若い人達も多く大変賑やかでした。私の住む帯江という地区にも北平中学校があり、毎日生徒達の賑やかな声がしておりました。

しかし、時が流れ、農林業が衰退し若い人達は村をでていきました。残ったのは高齢者ばかりで、過疎の村となりました。

生まれた時からこの河辺村に住んでいる私は、これからここで暮らしていきます。

先祖代々耕し続けてきた田畑、この私たちを育ててくれた農地を守り続けていこうと思えます。

そして、この村がなくなっても、故郷の清い小川の流れと、美しい山並がいつまでも続くことを心から願っております。

中学 3 年生



えいのりょうこう
栄野龍剛

今までは河辺だったけど、これから大洲市になって自然と森林に囲まれて豊かな新しい大洲市になると思います。



しみずともみ
清水ともみ

特に期待することはありません。早く合併してほしいです。



ふじおかあやの
藤岡あやの

あまり期待はしていません。だけど、今までと同じ河辺であって欲しいと思います。

新大洲市に 期待すること

小学 6 年生



うめだつよし
梅田剛志

遊び場があまりないから、みんなで集まって遊べる公園が欲しいです。



おおのいずみ
大野泉美

近くに遊ぶ所がないから、広い所などに公園のような遊び場を作って欲しい。



かくとうなな
角藤菜々

ふるさと公園みたいな、大きくて、みんなで遊べる場所が欲しい。



ごとうりょうしょう
五頭龍翔

遊ぶときにみんなが楽しめるような公園が欲しい。



しみずよしひこ
清水吉彦

道路を広くして欲しい。河辺の道路がせまいから。



たかのみ
壽野公海

河辺には遊ぶ場所が少ないから遊べる空き地が欲しい。



ほんかとりょう
本門亮

遊び場所が少ないので、みんなで遊べるような大きな公園が欲しいです。



まつだちはる
松田千春

坂本には公園がないので、できれば坂本地区に公園が欲しい。



やまだるみ
山田瑠美

家の近くに公園造ってみんなで遊びたい。



やまもたいき
山本大樹

新しい公園を作ってもっとおもしろい遊具を作って欲しい。



ゆきみりな
住見理奈

公園を作って欲しい。河辺中ぐらいのでっかいやつがいろんな地区に欲しい。



いしかつゆき
石井勝幸

遊ぶ所があまりないから、できれば大きな公園が欲しいです。

幼稚園

ともだち
いっぱい
できると
いいな。



あたらしい
ともだちと
なかよく
なりたい。

きりん組